見た・聞いた・考えた
―北欧の福祉・教育を考える旅から―

〈寄稿〉 全障研事務局長　薗部 英夫 さん

第1回　なぜ？北欧へ

デンマークの首都・コペンハーゲンの北の海岸にルイジアナ現代美術館がある（最近若い子らに人気らしい）。その喫茶室。大きな窓を背にして現地通訳の田口さんがいる。

「デンマークはどこの田舎町でも貧富の差を感じないが」と聞くと、「8割が中流。それが政権交代があっても社会福祉政策の変化がないというコンセンサスをささえている」と言う。

「デンマークと比較して、日本のいいところってなんですか？」と無邪気に質問。

「まず食べ物。日本は何でもある。それにうまい。そして四季がある自然。山も四季もない国にいると懐かしい。それと〝あいまいさ〟かな。

この国は、いつもどんなことでも、それはどんな意味があるのか？社会にどんな意味を持つのか？と一事が万事主張しなければ、だれからも認められない」と彼は続けた。

窓には小雨と海峡からの風がはげしくぶつかっていた。

＊

北欧への初めての旅は6年遅れの「新婚」旅行だった。3歳になった娘を連れ、せっかくだからと「この指とまれ」で集まった車いす利用者2人を含む18人の仲間といっしょだ。

田口さんの話はそのとき、1993年秋のことだ。それから数えれば8度、北欧の小さな町の障害のある人たちのくらしの現場を仲間たちといっしょに訪ねている。

＊

富山出身のカミサンの高校時代の恩師・村端先生（安曇野は帰省の際の中間地点で、ブルーベリーやそばなどのおいしいおもてなし目当に2004年から春と夏には欠かずお邪魔している）からは、「なぜこれほどに北欧にこだわるのか。これまでの視察でわるのかできたことをのべよ」と見えてきたことが課題が出されていた。

＊

初めて北欧を訪ねたときは、「日本と比べると30年くらいの差かも」と感じた。日本だってがんばってるしさ。本だっても、2度目には「3世代くらい経たないと民主主義は育たないのかも」と感じた。

そして3度目、「マラソンのトップランナーの背中はもう見えない」。それからは日本との「差」を比較するのではなく、その「違い」の背景、とりわけ「思想」を学ぼうと決めた。すると旅するごとに、ハッとして、胸にストンと落ちることがある。

たとえば、施設や学校で「LIFE」という言葉をよく聞いた。「生活」だけではなく、その延長にある「人生」ととらえるとピッタリくる言葉だ。

一人一人の「人生」をどう充実し、ゆたかにしていくか。障害があろうがなかろうが、それぞれはかけがえのない「人生」の可能性がある。障害がある部分は、みんなで＝社会で＝支える。住まいや教育や医療や仕事や、支えるべきことはハッキリしている。大事なことは、そんなシンプルなことなのだと思うのです。

これから5回の連載です。よろしくおつきあいください。

一人で暮らす重度障害者（スウェーデン）のアパートで

薗部英夫さんご夫妻

デンマークの基礎学校（小学校）で

薗部さんのプロフィール

1956 年群馬生まれ。全国障害者問題研究会全国事務局長、日本障害者協議会（ＪＤ）理事・情報通信委員長、東京都東久留米市在住。

著書『北欧　考える旅』全障研出版部など

個人 HP　http://www.nginet.or.jp/~kinbe/

日本共産党
池田ファンクラブ・ニュース
あした天気にな～れ

118号
2011年8月

部内資料
発行責任者　太田　勍　(62-5727)
議員連絡先　うすい孝彦 (62-5093)
服部 久子（62-4357）

ノーモア・ヒロシマ　ノーモア・フクシマ

子どもたちと「折り鶴」を合掌する吉永小百合さん（日本母親大会提供）

「原発ゼロ」への決意新たに
日本母親大会に8500人

参加報告　山本久子

第57回を迎えた「日本母親大会」が7月30日、31日に広島市で開催されました。3・11大震災の後でもあり、被爆地広島で開催されたこともあって、例年より多い8500人が参加、全体会・分科会で熱心な討論が行われました。

「原発ゼロ」への決意で燃えた全体会

1日目、広島県立総合体育館で開かれた全体会は、被災した宮城、岩手、福島から合計250人の参加がありました。原発被害に苦しむ福島のお母さんが赤ちゃんを抱き、5歳くらいの女の子の手を引いて訴えを行い、参加者から熱い連帯の拍手や声援が送られました。

「ノーモア・ヒロシマ」と「ノーモア・フクシマ」、もに、「ノーモア・ヒロシマ」と「原発ゼロ」への決意を固める歴史的な大会になりました。

「核と世界と子どもたち」と題して歌と朗読で訴える構成詩劇には、広島の子どもたちも参加して涙なしには聞かれない内容でした。

「反貧困ネットワーク事務局長」の湯浅誠さんが、「貧困なくし、人間らしく生きられる社会をつくる」と題して記念講演を行いました。湯浅さんのホームレス救援活動の原点は障がいを持つお兄さんにあったとのことです。「つくると求める、これをセットにした活動をしていきましょう」と訴えました。

歌手のクミコさんが特別参加して「ＩＮＯＲＩ～祈り～」などを歌いました。この歌は、広島平和記念公園にある「原爆の子の像」のモデル・佐々木禎子さんの甥である歌手、佐々木祐滋さんが禎子と平和への想いを綴った歌で、クミコさんに歌って欲しいと申し出た曲だそうです。

吉永小百合さんが原爆詩を朗読、「原発をなくして欲しい」と語る

吉永小百合さんが特別企画に参加しました。故峠三吉の「原爆詩集」の序詩や故栗原貞子の「生ましめんかな」など6編を朗読。小学生らと平和への願いを込めた「折り鶴」を合唱したそうです。吉永さんは「地震の多い日本では原子力発電所をなくしてほしい」と語ったと伝えられました。

私は抽選に漏れて参加出来ませんでした。

原発問題を考える学習会

9月11日（日）
午後2時～4時
福祉会館（1丁目）
講師　小牧崇氏

学習会の詳細は、同封のチラシをごらんください。

コラム 有明

▼福島原発事故も経験したヒロシマ・ナガサキの8月。メディアもいくつかの特集で原発事故を絡める。ＮＨＫＴＶの「原爆投下・活かされなかった極秘情報」は、「原爆投下は戦争を早く終わらせ、多くの犠牲者を出さないため」との勝者アメリカの論理を放映▼だが証言者によって語られたつぎの事実の衝撃は大きい。軍部は諜報活動で、広島と長崎への原爆投下を事前に察知していた。だが、なぜか原爆投下機エノラ・ゲイが広島上空に入っても空襲警報は出なかった。結果、広島・長崎市民20万人が焼かれ犠牲に▼地下壕にいて助かった当時の女学生の、「警報が出ていたら避難してあんなに多くの人は死ななかった」、との証言は重い。さらに映像は続ける。敗戦間際、資料はすべて焼却され諜報機関は存在しなかったことに・・・。そして最後に、「広島・長崎の悲劇は国を導く人の責任の重さを、今の時代に問いかけています」▼と、福島原発事故の発生当初の政府と東電の情報隠しにつながる・・・。生命にかかわること、徹底した追究・解明を。その首相、核廃絶に「究極」と後ろ向き発言。国民の願いに背く政治はもう要らない。